

27. 9. 2004

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

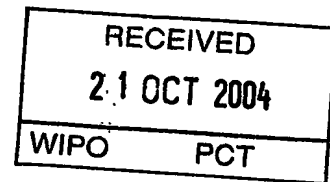
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日                      2 0 0 3 年    9 月 3 0 日  
Date of Application:

出 願 番 号                      特 願 2 0 0 3 - 3 4 0 8 1 0  
Application Number:  
[ST. 10/C]:                      [ J P 2 0 0 3 - 3 4 0 8 1 0 ]

出 願 人                      ソニー株式会社  
Applicant(s):



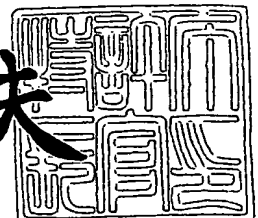
PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

BEST AVAILABLE COPY

2 0 0 4 年    5 月 2 7 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願  
【整理番号】 0390554306  
【提出日】 平成15年 9月30日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 G02F 1/1335  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内  
    【氏名】 畠中 正斗  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内  
    【氏名】 横田 和広  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内  
    【氏名】 和田 春明  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内  
    【氏名】 奥 貴司  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000002185  
    【氏名又は名称】 ソニー株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100082131  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 稲本 義雄  
    【電話番号】 03-3369-6479  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 032089  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 9708842

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

第 1 の原色光を発光する第 1 の光源と、  
第 2 の原色光を発光する第 2 の光源と、  
第 3 の原色光を発光する第 3 の光源と、  
前記第 1 の原色光を反射して他の原色光を透過する第 1 の鏡面体と、  
前記第 2 の原色光を反射して他の原色光を透過する第 2 の鏡面体と、  
前記第 3 の原色光を反射して他の原色光を透過する第 3 の鏡面体と、  
前記第 1、第 2、第 3 の鏡面体を透過した各原色光を混合して白色光を出射する色混合手段と

を備えた光学ユニットを、少なくとも有するバックライト装置。

**【請求項 2】**

第 1 の原色光を発光する第 1 の光源と、  
第 2 の原色光を発光する第 2 の光源と、  
第 3 の原色光を発光する第 3 の光源と、  
前記第 1 の原色光を反射して前記第 2 の原色光を透過する第 1 のダイクロイック膜と、  
前記第 3 の原色光を反射し前記第 2 の原色光を透過する第 2 のダイクロイック膜とを X 字状に有し、前記第 1、第 2、第 3 の原色光を混合して白色光を出射するクロスダイクロイック素子と

を備えた光学ユニットを、少なくとも有するバックライト装置。

**【請求項 3】**

白色光を発光する光源と、  
第 1 の偏光波は透過し第 2 の偏光波は反射する第 1 の鏡面体と、  
前記第 1 の鏡面体から反射された前記第 2 の偏光波を反射する第 2 の鏡面体と、  
前記第 2 の鏡面体で反射した第 2 の偏光波を前記第 1 の偏光波に変換する偏光変換素子と

を備え、出射される偏光波を前記第 1 の偏光波に揃えて出射する光学ユニットを、少なくとも有するバックライト装置。

**【請求項 4】**

光源は、第 1 の原色光を発光する第 1 の光源と、第 2 の原色光を発光する第 2 の光源と、第 3 の原色光を発光する第 3 の光源から発光された各原色光を混合して得られた白色光である

ことを特徴とする請求項 3 記載のバックライト装置。

**【請求項 5】**

第 1 の原色光を発光する第 1 の光源と、  
第 2 の原色光を発光する第 2 の光源と、  
第 3 の原色光を発光する第 3 の光源と、  
前記第 1 の原色光を反射して他の原色光を透過する第 1 の鏡面体と、  
前記第 2 の原色光を反射して他の原色光を透過する第 2 の鏡面体と、  
前記第 3 の原色光を反射して他の原色光を透過する第 3 の鏡面体と、  
前記第 1、第 2、第 3 の鏡面体を透過した各原色光を混合して白色光を出射する色混合手段とを備えた光学ユニットを少なくとも有するバックライト装置と、

前記バックライト装置により面発光された光を利用して映像を表示する液晶表示パネルと

を備えることを特徴とする液晶表示装置。

**【請求項 6】**

第 1 の原色光を発光する第 1 の光源と、  
第 2 の原色光を発光する第 2 の光源と、  
第 3 の原色光を発光する第 3 の光源と、  
前記第 1 の原色光を反射し前記第 2 の原色光を透過する第 1 のダイクロイック膜と、前

記第3の原色光を反射し前記第2の原色光を透過する第2のダイクロイック膜とをX字状に有し、前記第1、第2、第3の原色光を混合して白色光を出射するクロスダイクロイック素子とを備えた光学ユニットを少なくとも有するバックライト装置と、

前記バックライト装置により面発光された光を利用して映像を表示する液晶表示パネルと

を備えることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項7】

白色光を発光する光源と、

第1の偏光波は透過し第2の偏光波は反射する第1の鏡面体と、

第1の鏡面体から反射された第2の偏光波を反射する第2の鏡面体と、

第2の鏡面体で反射した第2の偏光波を第1の偏光波に変換する偏光変換素子とを備え、出射される偏光波を前記第1の偏光波に揃えて出射する光学ユニットを、少なくとも有するバックライト装置と、

前記バックライト装置により面発光された光を利用して映像を表示する液晶表示パネルと

を備えることを特徴とする液晶表示装置。

## 【書類名】明細書

## 【発明の名称】バックライト装置、液晶表示装置

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、LED素子などを光源として面発光するバックライト装置およびそれを利用する液晶表示装置に関し、特に、高色再現性を得ることができるようにしたバックライト装置および液晶表示装置に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

図1は、コンピュータ端末、携帯電子機器、またはテレビジョン受像機などを構成する映像を表示する液晶表示装置の構成例を示している。

## 【0003】

液晶表示パネル2は、2枚の偏光板（図示せず）の間に液晶を封入して構成されており、印加された電圧により液晶分子の向きを変え、光の透過率を変化させることで画像を表示する。バックライト装置1は、液晶表示パネル2の液晶自体は発光しないので、液晶表示パネル2の背後から面発光を出射する。

## 【0004】

このバックライト装置1は、光源としてのLED素子11B、11G、11R（以下、個々に区別する必要がない場合、単に、LED素子11と称する。他の場合においても同様に称する）、並びに図中に示すようにそれぞれ積層される導光板12、拡散シート13、BEFシート14、およびD-BEFシート15からなり、液晶表示パネル2に対応配置され、液晶表示パネル2に向けて面発光する。

## 【0005】

バックライト装置1のLED素子11B、11G、11Rは、面発光の光源として、それぞれ青色光Lb、緑色光Lg、赤色光Lrを発光する。LED素子11により発光された青色光Lb、緑色光Lg、および赤色光Lrは、図2に示すように、導光板12によって導かれる間に自然混合されて白色光Lwとなる。

## 【0006】

なお、図1の例では、簡単のために、青色光Lb、緑色光Lg、赤色光Lrを発光するLED素子11B、11G、11Rがそれぞれ1つずつ設けられているが、実際には、所定の割合でそれぞれのLED素子11B、11G、11Rが複数個設けられている。

## 【0007】

導光板12は、図2に示すように、導光路12Aおよび反射路12Bを経て入射された光を導光し、その上面に備えられた拡散シート13に導く。

## 【0008】

導光路12Aと反射路12Bは、LED素子11B、11G、11Rから出射された光が白色光Lwに自然混合されるのに必要な空間が得られるように設計されている。例えば図2において、幅Wや経Rは、そのような空間が形成されるような所定の大きさとなっている。また導光路12Aと反射路12Bの材質では、導光または反射が効率的に行われるのに適した屈折率で光が反射するように所定の材質となっている。

## 【0009】

また導光板12には、拡散シート13の各部にできるだけ均一に出光されるように、例えば、底面部にドットが形成され、導光された光の一部がドットにより反射されることにより、拡散シート13側に出光されるようになされている。

## 【0010】

拡散シート13は、例えば、厚さ0.25mmのポリカーボネイトフィルムからなり、導光板12から入射された光を、不均一な部分を拡散することによって均一にし、BEFシート14に透過させる。

## 【0011】

BEF (Brightness Enhancement Firm) シート (P成分用輝度向上シート: BEFシリーズ)

ズは住友3M社の商品名) 14は、拡散シート13を介して入射された光のP成分の、液晶表示パネル2の液晶の視野角(液晶表示パネル2を透過した光のユーザが視認できる角度)外のものを、その視野角内に集光する。このように液晶表示パネル2を透過してもユーザには見えない液晶表示パネル2の視野角外の光(P成分)を、視野角内に集光するようにしたので、見た目の輝度を向上させることができる。なお、BEFシート14に入射されたS成分の光は、そのままD-BEFシート15に透過する。

#### 【0012】

D-BEFシート(S成分用輝度向上シート)15は、BEFシート14を介して入射された光のS成分をP成分に変換するとともに、BEFシート14と同様に、P成分光の、液晶表示パネル2の視野角外のものを集光して、液晶表示パネル2に透過させる。

#### 【0013】

液晶表示パネル2(図1)は、本来偏光板によってP成分のみを透過させる構成となっており、図示せぬ信号線からの信号に基づいて、各画素単位で液晶の方向を制御し、導光板12、拡散シート13、BEFシート14、およびD-BEFシート15を介して入射された、LED素子11から発生された光で形成された白色光Lwの透過量を変化させることにより、映像を構成し表示する。

#### 【0014】

なお、図1の例の他、LED素子を光源とし、それらから発光された青色光、緑色光、および赤色光を自然混合するバックライト装置の例は、実公平7-36347号公報や特表2002-540458号公報に記載されている。

#### 【0015】

【特許文献1】実公平7-36347号公報、特表2002-540458号公報

#### 【発明の開示】

#### 【発明が解決しようとする課題】

#### 【0016】

しかしながら、図1に示したように、LED素子11からの光を自然混合する場合、それにより得られた光には、青色光Lb、赤色光Lr、緑色光Lgの原色光の他、例えば、BR(マゼンタ)、RG(イエロー)、BG(シアン)、さらに、これらの混色光が出射されてしまうので、色ムラが発生する課題があった。ちなみに、液晶表示パネル2には、青色(B)、赤色(R)、緑色(G)の原色カラーフィルタが配置されている。

#### 【0017】

本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、例えば、LED素子を光源とするバックライト装置において、色ムラを無くして高色再現性を向上させることができるようにするものである。

#### 【課題を解決するための手段】

#### 【0018】

請求項1に記載のバックライト装置は、BGR原色光の色混合にリレーダイクロイックミラーを用いるものである。本発明は、第1の原色光(例えばB、以下同様)を発光する第1の光源(B)と、第2の原色光(例えば、G)を発光する第2の光源(G)と、第3の原色光(例えば、R)を発光する第3の光源(R)と、第1の原色光(B)を反射して他の原色光を透過する第1の鏡面体と、第2の原色光(G)を反射して他の原色光を透過する第2の鏡面体と、第3の原色光(R)を反射して他の原色光を透過する第3の鏡面体と、第1、第2、第3の鏡面体を透過した各原色光を混合して白色光を出射する色混合手段とを備えた光学ユニットを、少なくとも備えている。

#### 【0019】

請求項2記載のバックライト装置は、BGR原色光の色混合にクロスダイクロイックミラーを用いるものである。本発明のバックライト装置は、第1の原色光(B)を発光する第1の光源(B)と、(第1の原色光(B)を反射する鏡面体と)、第2の原色光(G)を発光する第2の光源(G)と、第3の原色光(R)を発光する第3の光源(R)と、(第3の原色光(R)を反射する鏡面体と)、第1の原色光(B)を反射し第2の原色光(

G)を透過する第1のダイクロイック膜と、第3の原色光(R)を反射し第2の原色光(G)を透過する第2のダイクロイック膜とをX字状に有し、第1、第2、第3の原色光を混合して白色光を出射するクロスダイクロイック素子とを備えた光学ユニットを、少なくとも有する。なお、(第1の原色光(B)を反射する鏡面体と)、(第3の原色光(R)を反射する鏡面体と)とは、必須要件ではないので請求項からは省かれている。

#### 【0020】

請求項3に記載のバックライト装置は、光学ユニットに偏光変換方式を採用し、出射する偏光方向を揃えるものである。本発明のバックライト装置は、白色光(W)を発光する光源(W)と、第1の偏光波(P)は透過し第2の偏光波(S)は反射する第1の鏡面体と、第1の鏡面体から反射された第2の偏光波(S)を反射する第2の鏡面体と、第2の鏡面体で反射した第2の偏光波(S)を第1の偏光波(P)に変換する偏光変換素子( $\lambda/2$ 位相差板)とを備え、出射される偏光波を第1の偏光波(P)に揃えて出射する光学ユニットを、少なくとも有するバックライト装置である。

#### 【0021】

請求項4に記載のバックライト装置は、色混合後に偏光変換を行うものである。すなわち、請求項3に記載のバックライト装置において、光源(W)は、第1の原色光(B)を発光する第1の光源(B)と、第2の原色光(G)を発光する第2の光源(G)と、第3の原色光(R)を発光する第3の光源(R)から発光された各原色光を混合して得られた白色光である。

#### 【0022】

なお、本発明のBGR原色光の色混合と、出射光の偏光方向を揃える偏光変換とは任意に組み合わせることができる。すなわち、請求項3の手法により、BGR原色光毎に偏光変換を行った後、請求項1および請求項2の手法によりBGR原色光の色混合を行う場合も、本発明のバックライト装置の主旨に含まれる。

#### 【0023】

請求項5に記載の液晶表示装置は、第1の原色光(B)を発光する第1の光源(B)と、第2の原色光(G)を発光する第2の光源(G)と、第3の原色光(R)を発光する第3の光源(R)と、第1の原色光(B)を反射して他の原色光を透過する第1の鏡面体と、第2の原色光(G)を反射して他の原色光を透過する第2の鏡面体と、第3の原色光(R)を反射して他の原色光を透過する第3の鏡面体と、第1、第2、第3の鏡面体を透過した各原色光を混合して白色光を出射する色混合手段とを備えた光学ユニットを少なくとも有するバックライト装置と、このバックライト装置により面発光された光を利用して映像を表示する液晶表示パネルとを備えた液晶表示装置である。

#### 【0024】

請求項6に記載の液晶表示装置は、第1の原色光(B)を発光する第1の光源(B)と、第2の原色光(G)を発光する第2の光源(G)と、第3の原色光(R)を発光する第3の光源(R)と、第1の原色光(B)を反射し第2の原色光(G)を透過する第1のダイクロイック膜と、第3の原色光(R)を反射し第2の原色光(G)を透過する第2のダイクロイック膜とをX字状に有し、第1、第2、第3の原色光を混合して白色光を出射するクロスダイクロイックミラーとを備えた光学ユニットを少なくとも有するバックライト装置と、このバックライト装置により面発光された光を利用して映像を表示する液晶表示パネルとを備えた液晶表示装置である。

#### 【0025】

請求項7に記載の液晶表示装置は、白色光(W)を発光する光源(W)と、第1の偏光波(P)は透過し第2の偏光波(S)は反射する第1の鏡面体と、第1の鏡面体から反射された第2の偏光波(S)を反射する第2の鏡面体と、第2の鏡面体で反射した第2の偏光波(S)を第1の偏光波(P)に変換する偏光変換素子( $\lambda/2$ 位相差板)とを備え、出射される偏光波を第1の偏光波(P)に揃えて出射する光学ユニットを、少なくとも有するバックライト装置と、このバックライト装置により面発光された光を利用して映像を表示する液晶表示パネルとを備えた液晶表示装置である。

## 【発明の効果】

## 【0026】

本発明によれば、発光ダイオード素子を光源とするバックライト装置においては、ダイクロイックミラーによって発光ダイオード素子から出射された青色光 $L_b$ 、緑色光 $L_g$ 、および赤色光 $L_r$ を混合するようにしたため、純粋な $L_b$ 、 $L_r$ 、 $L_g$ 光のみが光学的に混色されるので色ムラが発生しない。従って、色純度の高い、高色再現性可能な白色光 $L_w$ を液晶表示パネル2に面発光することができる。特に、画質が問われるテレビジョン受像機などのバックライト装置として有効である。

## 【発明を実施するための最良の形態】

## 【0027】

以下に本発明の実施の形態を説明するが、この記載は本明細書に記載されている発明を確認するものである。従って、発明の実施の形態中には記載されていない実施例があったとしても、その実施例が本発明に対応しないことを意味するものではない。逆に、実施の形態としてここに記載されていたとしても、その発明以外の発明に対応しないことを意味するものではない。

## 【0028】

以下、図面を参照しながら本発明の実施の形態について説明する。

## 【0029】

## 第1の実施の形態例

図3は、本発明を適用したバックライト装置51の構成例を示している。本実施の形態例は、BGR原色光の色混合にリレーダイクロイックミラー方式を採用した例である。このバックライト装置51には、図1のバックライト装置1の導光路12Aおよび反射路12Bに代えて、光学ユニット61および導光板62が設けられている。他の部分は、図1における場合と同様であるので、その説明は適宜省略する。

## 【0030】

バックライト装置には、図1または図3に示すような、導光板の側面に、LED素子またはCCFL（冷陰極線型蛍光管）などを配置したエッジライト型と、液晶表示パネルの直下に複数本のランプやLED光源を配置した直下型（エリアライト型やバックライト型とも呼ばれる）とがある。ここではエッジライト型を例として説明するが、後述するように直下型でも同様に本発明を適用することができる。

## 【0031】

光学ユニット61には、LED素子11B、11R、11G、および導光板62が接合されている。

## 【0032】

光学ユニット61の内部には、図4に示す光学ユニット61の斜視構成図および図5に示す光学ユニット61を上方から見た断面図に示されるように、緑色光 $L_g$ と赤色光 $L_r$ を透過し、青色光 $L_b$ を反射するダイクロイックミラー71B、青色光 $L_b$ と赤色光 $L_r$ を透過し、緑色光 $L_g$ を反射するダイクロイックミラー71G、および青色光 $L_b$ と緑色光 $L_g$ を透過し、赤色光 $L_r$ を反射するダイクロイックミラー71Rが、LED素子11B、11G、11Rから出射された光を透過、または反射することによって混合し、白色光 $L_w$ が形成されるように配置されている。またダイクロイックミラー71B、71G、71Rによって形成された白色光 $L_w$ が導光板62に入射されるように全反射を行うミラー72が配置されている。

## 【0033】

すなわち、ダイクロイックミラー71Bからは、LED素子11Bから出射された青色光（ $L_b$ ）が、ダイクロイックミラー71Gに向かって反射される。

## 【0034】

ダイクロイックミラー71Gからは、透過したダイクロイックミラー71Bにより反射された青色光 $L_b$ と、LED素子11Gから出射してダイクロイックミラー71Gで反射された緑色光 $L_g$ とが混合された（ $L_b+L_g$ ）光が、ダイクロイックミラー71Rに向



かって出射される。

#### 【0035】

ダイクロイックミラー 71R からは、透過したダイクロイックミラー 71G により入射された青・緑の混合光 ( $L_b + L_g$ ) と、LED 素子 11R から出射してダイクロイックミラー 71R で反射された赤色光 ( $L_r$ ) とが混合された ( $L_b + L_g + L_r$ ) が、全反射ミラー 72 に向かって出射される (すなわち白色光  $L_w$  が全反射ミラー 72 に向かって出射される)。

#### 【0036】

全反射ミラー 72 からは、ダイクロイックミラー 71R により出射された青・緑・赤の混合光 ( $L_b + L_g + L_r = L_w$ : 白色光) が導光板 62 に向かって出射される。

#### 【0037】

導光板 62 は、光学ユニット 61 から入射された白色光  $L_w$  を導光し、所定の構成 (例えば、その底面部にドットが形成され、導光された光の一部がドットにより反射されることにより出射光を均一化させる構成) によって、効率的に均一化された光を効率的に拡散シート 13 に導く。

#### 【0038】

以上のように、従来のような自然混合ではなく、ダイクロイックミラー 71 によって青色光  $L_b$ 、緑色光  $L_g$ 、および赤色光  $L_r$  を強制的に混合するようにし、純粋な青色光  $L_b$ 、緑色光  $L_g$ 、および赤色光  $L_r$  のみが光学的に混色されるようにしたので、LED 素子を光源とするバックライト装置において、色ムラの発生を抑制し、高色再現性可能な (いわゆる色純度が高い) 白色光  $L_w$  を、液晶表示パネル 2 に面発光することができる。

#### 【0039】

なお、図 3 の例では、簡単のために、青色光  $L_b$ 、緑色光  $L_g$ 、および赤色光  $L_r$  を発光する LED 素子 11B、11G、11R がそれぞれ 1 つずつ設けられているが、所定の割合でそれぞれの LED 素子 11B、11G、11R を複数個設けることができる。また光学ユニット 61 の構成 (ダイクロイックミラー 71 や全反射ミラー 72 の配置) を、LED 素子 11 の数や接合位置に応じて変更することができる。

#### 【0040】

また図 3 の例では、LED 素子 11、光学ユニット 61、および導光板 62 が、図 6 に示すように、水平方向に並んで接合されていたが、図 7 または図 8 に示すように接合することもできる。図 7 に示すように導光板 62 の下面に光学ユニット 61 が配置されている場合、LED 素子 11、および光学ユニット 61 のダイクロイックミラー (図示省略) 71 は、図 7 の紙面の奥行き方向に向かって配置され、全反射ミラー 72 は混合光 (白色光  $L_w$ ) が導光板 62 内部に向かって導かれるように、導光板 62 に配置されている。

#### 【0041】

また、図 8 の例の場合、光学ユニット 61 は、導光板 62 の下側に配置されている。すなわちこれは、前述の直下型バックライト装置に適用した場合の例である。この場合、LED 素子 11B、11G、11R は光学ユニット 61 に接合される。ダイクロイックミラー 71 (図示省略) は光学ユニット 61 内部に、ダイクロイックミラー 71 で混合された白色光  $L_w$  が、直接的に導光板 62 に入射するように配置されている。

#### 【0042】

また、LED 素子 11B、11G、11R は、光学ユニット 61 下に配置する以外に、図 9 に示すように、チップ型の LED 素子 11B、11G、11R、ダイクロイックミラー 71B、71G、71R、および全反射ミラー 72 を面状に並べて直下型の平面 LED バックライト装置を構成することもできる。

#### 【0043】

### 第 2 の実施の形態例

図 10 は、本発明を適用したバックライト装置 101 の構成例を示している。本実施の形態例は、BGR 原色光の色混合にクロスダイクロイックミラー方式を採用した例である。このバックライト装置 101 には、図 3 のバックライト装置 51 の光学ユニット 61 に

代えて、光学ユニット111が設けられている。他の部分は、図3における場合と同様であるので、その説明は適宜省略する。

#### 【0044】

光学ユニット111には、光学ユニット61と同様に、LED素子11B、11G、11R、および導光板62が接合されている。光学ユニット111内部には、図11に示す光学ユニット111を上方からみた断面図に示されるように、ダイクロイックミラー121R、ダイクロイックミラー121B、およびクロスダイクロイックミラー122が、LED素子11R、11B、11Gに対応して配置されている。

#### 【0045】

ダイクロイックミラー121Rは、赤色光 $L_r$ を反射して他の色を透過し、ダイクロイックミラー121Bは、青色光 $L_b$ を反射して他の色を透過する。クロスダイクロイックミラー122は、赤色光 $L_r$ を反射して他の色を透過するミラー(a)と、青色光 $L_b$ を反射して他の色を透過するミラー(b)とがクロスした構成を有している。

#### 【0046】

LED素子11Rから出射した赤色光 $L_r$ は、ダイクロイックミラー121Rで反射されてクロスダイクロイックミラー122方向へ向かう。LED素子11Bから出射した青色光 $L_b$ は、ダイクロイックミラー121Bで反射されてクロスダイクロイックミラー122方向へ向かう。LED素子11Gから出射された緑色光 $L_g$ は、直接クロスダイクロイックミラー122方向へ向かって出射される。

#### 【0047】

ダイクロイックミラー121Rから入射された赤色光 $L_r$ およびダイクロイックミラー121Bから入射された青色光 $L_b$ は、クロスダイクロイックミラー122によって反射されて出射面に出光する。LED素子11Gから出射された緑色光 $L_g$ は、クロスダイクロイックミラー122を通過して出射面に出光する。

#### 【0048】

従って光学ユニット111(クロスダイクロイックミラー122)からは、青色光 $L_b$ 、緑色光 $L_g$ 、および赤色光 $L_r$ が強制混合された白色光( $L_b + L_g + L_r = L_w$ )が導光板62に向かって出射される。

#### 【0049】

導光板62は、光学ユニット111から入射された白色光 $L_w$ を導光し、所定の構成によって、効率的に均一化された光を効率的に拡散シート13に導く。

#### 【0050】

以上のように、ダイクロイックミラー121R、121B、およびクロスダイクロイックミラー122を利用して、青色光 $L_b$ 、緑色光 $L_g$ 、および赤色光 $L_r$ を強制混合するようにしたので、図3に示した、全反射ミラー72を利用した光学ユニット61に比べ、光学ユニット111を小型化することができる(ミラーの数が1つ少ない)。また光学ユニット61と同様に、純粋な青色光 $L_b$ 、赤色光 $L_r$ 、緑色光 $L_g$ のみが光学的に混色されるので色ムラの発生を抑制することができる。

#### 【0051】

##### 第3の実施の形態例

図12は、本発明を適用したバックライト装置151の構成例を示している。本実施の形態例は、光学ユニットに偏光変換方式を採用し、出射する偏光方向を描えるものである。このバックライト装置151には、図3のバックライト装置51のLED素子11と光学ユニット61に代えて、LED素子161および光学ユニット162が設けられている。また図3のバックライト装置51のD-BEFシート15が省かれている。

#### 【0052】

光学ユニット162には、白色光 $L_w$ を発光するLED素子161と、導光板62が接合されている。光学ユニット162内部には、図13に示す光学ユニット162を上方からみた断面図に示すように、偏光ビームスプリッタ171、反射ミラー172、および $\lambda/2$ 位相差板173が、LED素子161に対応して配置されている。

## 【0053】

偏光ビームスプリッタ171 (Polarized Beam Splitter : P BS) は、LED素子161により出射された白色光LwのP成分の光を集光して透過し、導光板62に出射するとともに、S成分の光を反射ミラー172に向かって反射する。なお偏光ビームスプリッタ171は、偏光方向が互いに直交する2つの直線偏光 (p偏光、s偏光) に互いに強度が等しく偏光分離されている。

## 【0054】

反射ミラー172は、偏向ビームスプリッタ171により反射されたS成分を反射して $\lambda/2$ 位相差板173に向かって出射する。

## 【0055】

$\lambda/2$ 位相差板173は、反射ミラー172から出射されたS成分の光をP成分の光に偏光変換して、導光板62に向かって出射する。

## 【0056】

したがって光学ユニット162からは、LED素子161により出射された白色光LwのP成分の光と、 $\lambda/2$ 位相差板172によってそのS成分の光が変換されたP成分の光とが(2本のP成分光が)、導光板62に向かって出射される。

## 【0057】

以上のように、LED素子161が発光する白色光LwのP成分の光と、そのS成分を変換したP成分の光(1個の光源から複数本の光)を導光板62に出射するようにしたので、LED素子を光源とするバックライト装置において、1本の白色光Lwを導光板62に出射する場合に比べ、バックライトの光利用率を向上させることができる。すなわち、白色光Lwから出射したP+S成分のうち、本来は捨てられていたS成分を、P成分に変換して再利用するようにしたので、バックライトの光利用率を倍増することができる。

## 【0058】

また、導光板62にはP成分の光しか入射されないで、前述のように、S成分をP成分に変換するために使用されていたD-BEFシートが不要となり、その分、バックライト装置151のコストダウンを図ることができ、バックライト装置151を薄くすることができる。

## 【0059】

なお、図12の例では、簡単のために、LED素子161、偏光ビームスプリッタ171、反射ミラー172、および $\lambda/2$ 位相差板173がそれぞれ1つずつ設けられているが、所定の割合で複数個設けることができる。

## 【0060】

その場合、図13に示す構成を順に並べて構成してもよいが、図14に示すように、LED素子161、偏光ビームスプリッタ171、反射ミラー172、および $\lambda/2$ 位相差板173を対称的に配置することができる。図14の例では、偏光ビームスプリッタ171、反射ミラー172、および $\lambda/2$ 位相差板173が、2組み対照的に配置されている。このように対照的に設けることにより、光学ユニット162のコンパクト化が可能となるとともに、バックライト装置151における光均一化をさらに図ることができる。

## 【0061】

## 第4の実施の形態例

図15は、本発明を適用したバックライト装置201の構成例を示している。本実施の形態例は、BGR原色光の色混合後に偏光変換を実施した例である。このバックライト装置201には、図12のバックライト装置151のLED素子161に代えて、LED素子11B、11G、11Rからの光を強制混合する光学ユニット61(図3)が設けられている。

## 【0062】

この場合、光学ユニット162の偏光ビームスプリッタ171は、図16に示すように、光学ユニット61からの、LED素子11B、11G、11Rが発光する青色光Lb、緑色光Lg、赤色光Lrを強制混合して得られた白色光( $Lb + Lg + Lr = Lw$ )のP

成分の光を集光して透過し、導光板62に出射するとともに、S成分の光を反射ミラー172に向かって反射する。

【0063】

反射ミラー172は、偏向ビームスプリッタ171により反射されたS成分を反射して $\lambda/2$ 位相差板173に向かって出射される。 $\lambda/2$ 位相差板173は、反射ミラー172から出射されたS成分の光をP成分の光に変換して、導光板62に向かって出射する。

【0064】

したがってこの例の場合、光学ユニット162からは、光学ユニット61でLED素子11B、11G、11Rが強制混合されて得られた白色光LwのP成分の光と、そのS成分が変換されたP成分の光とが、導光板62に向かって出射される。

【0065】

以上のように、光学ユニット61によってLED素子11から出射された青色光Lb、緑色光Lg、および赤色光Lrを強制的に混合して白色光Lwを形成し、光学ユニット162によって捨てられていたS成分の光を再利用するようにしたので、LED素子を光源とするバックライト装置において、色純度と光利用効率を向上させることができる。

【0066】

なお図15は、ダイクロイックミラー71と全反射ミラー72で光を強制混合する光学ユニット61を利用したが、それに代えて、図17に示すように、図10に示したクロスダイクロイックミラー122で光を強制混合する光学ユニット111を利用することもできる。

【0067】

第5の実施の形態例

図18は、本発明を適用したバックライト装置251の構成例を示している。本実施の形態例は、偏光変換後にBGR原色光の色混合を実施した例である。このバックライト装置251には、図3のバックライト装置51のLED素子11に代えて、LED素子11R、11G、11Bに対応して、図12のバックライト装置151の光学ユニット(S成分をP成分に変換するユニット)162R、162G、162Bが設けられている。

【0068】

すなわちこの例の場合、光学ユニット61からは、図19に示すように、光学ユニット162Bから出射された青色光LbのP成分とそのS成分が変換されたP成分、光学ユニット162Gから出射された緑色光LgのP成分とそのS成分が変換されたP成分、および光学ユニット162Rから出射された赤色光LrのP成分とその成分が変換されたP成分が、それぞれ光学ユニット61で強制混合されて導光板62に出射される。

【0069】

以上のように、光学ユニット162によって、捨てられていたS成分の光をP成分の光に変換してさらに利用し、光学ユニット61によって、P成分のみとなった青色光Lb、緑色光Lg、および赤色光Lrを強制混合するようにしたので、LED素子を光源とするバックライト装置において、色純度を向上させることができる。

【0070】

なお図19は、ダイクロイックミラー71と全反射ミラー72で光を強制混合する光学ユニット61を利用したが、それに代えて、図20に示すように、図10に示したクロスダイクロイックミラー122で光を強制混合する光学ユニット111を利用することもできる。

【図面の簡単な説明】

【0071】

【図1】従来のバックライト装置の斜視構成を示す図である。

【図2】図1の導光板の断面図である。

【図3】本発明を適用したバックライト装置の斜視構成図である。

【図4】図3の光学ユニットの構成例を示す図である。

【図5】図3の光学ユニットの構成例を示す他の図である。

【図 6】図 3 の LED 素子、光学ユニット、および導光板との接合関係を示す図である。

【図 7】図 3 の LED 素子、光学ユニット、および導光板とその他の接合関係を示す図である。

【図 8】図 3 の LED 素子、光学ユニット、および導光板とその他の接合関係を示す図である。

【図 9】図 3 の光学ユニットの他の構成例を示す図である。

【図 10】本発明を適用した他のバックライト装置の斜視構成図である。

【図 11】図 10 の光学ユニットの断面図である。

【図 12】本発明を適用した他のバックライト装置の斜視構成図である。

【図 13】図 12 の光学ユニットの構成例を示す図である。

【図 14】図 12 の光学ユニットの他の構成例を示す図である。

【図 15】本発明を適用した他のバックライト装置の斜視構成図である。

【図 16】図 15 の光学ユニットの構成例を示す図である。

【図 17】図 15 の光学ユニットの他の構成例を示す図である。

【図 18】本発明を適用した他のバックライト装置の斜視構成図である。

【図 19】図 18 の光学ユニットの構成例を示す図である。

【図 20】図 18 の光学ユニットの他の構成例を示す図である。

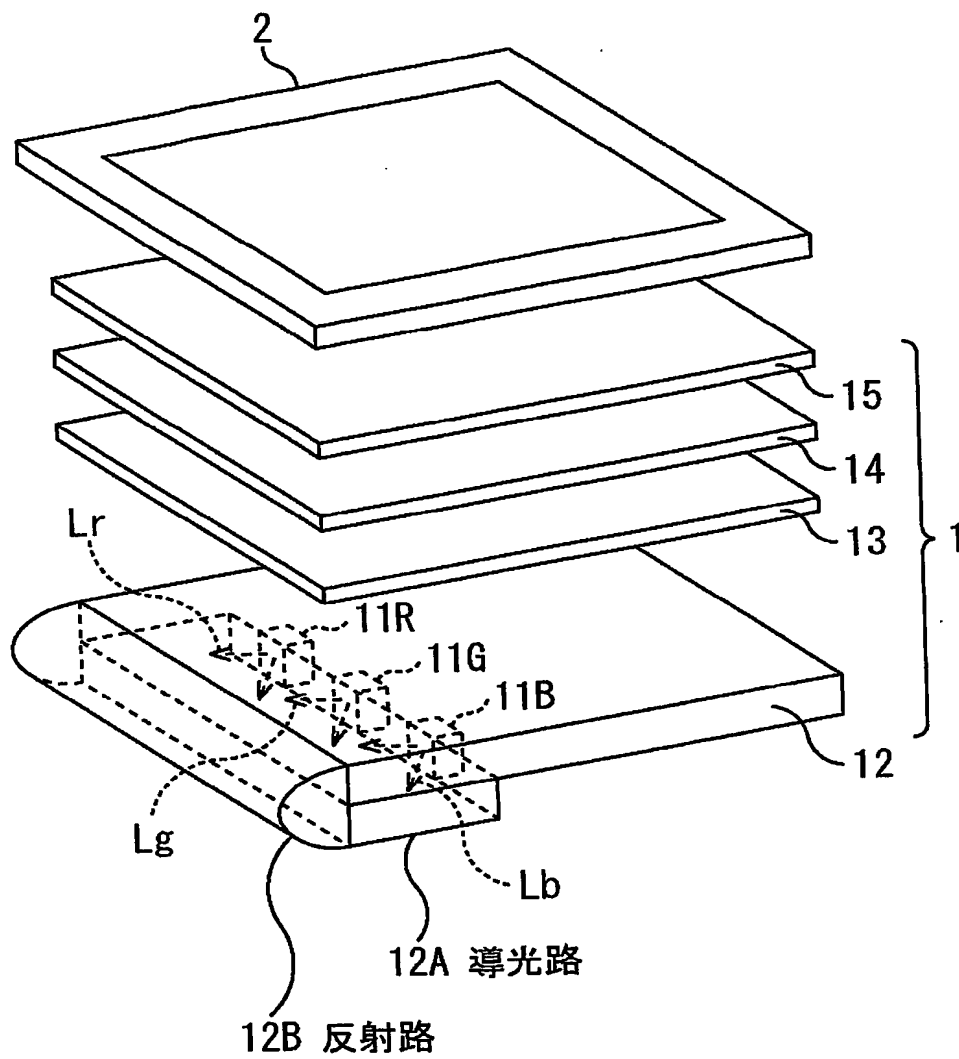
【符号の説明】

【0072】

11 LED素子, 51 バックライト装置, 61 光学ユニット, 71 ダイクロイックミラー, 72 全反射ミラー, 101 バックライト装置, 111 光学ユニット, 121 ダイクロイックミラー, 122 クロスダイクロイックミラー, 161 LED素子, 162 光学ユニット, 171 偏光ビームスプリッタ (PBS), 172 反射ミラー, 173  $\lambda/2$ 位相差板, 201 バックライト装置, 251 バックライト装置

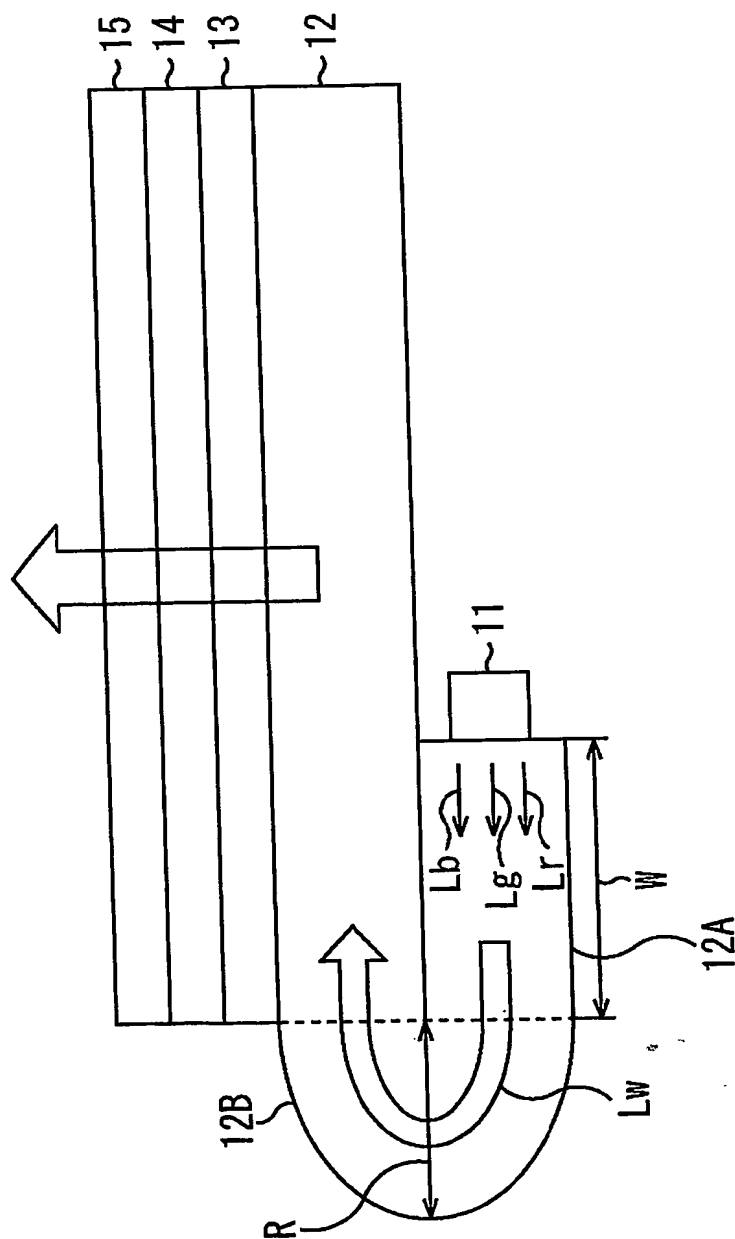
【書類名】 図面  
【図 1】

図1



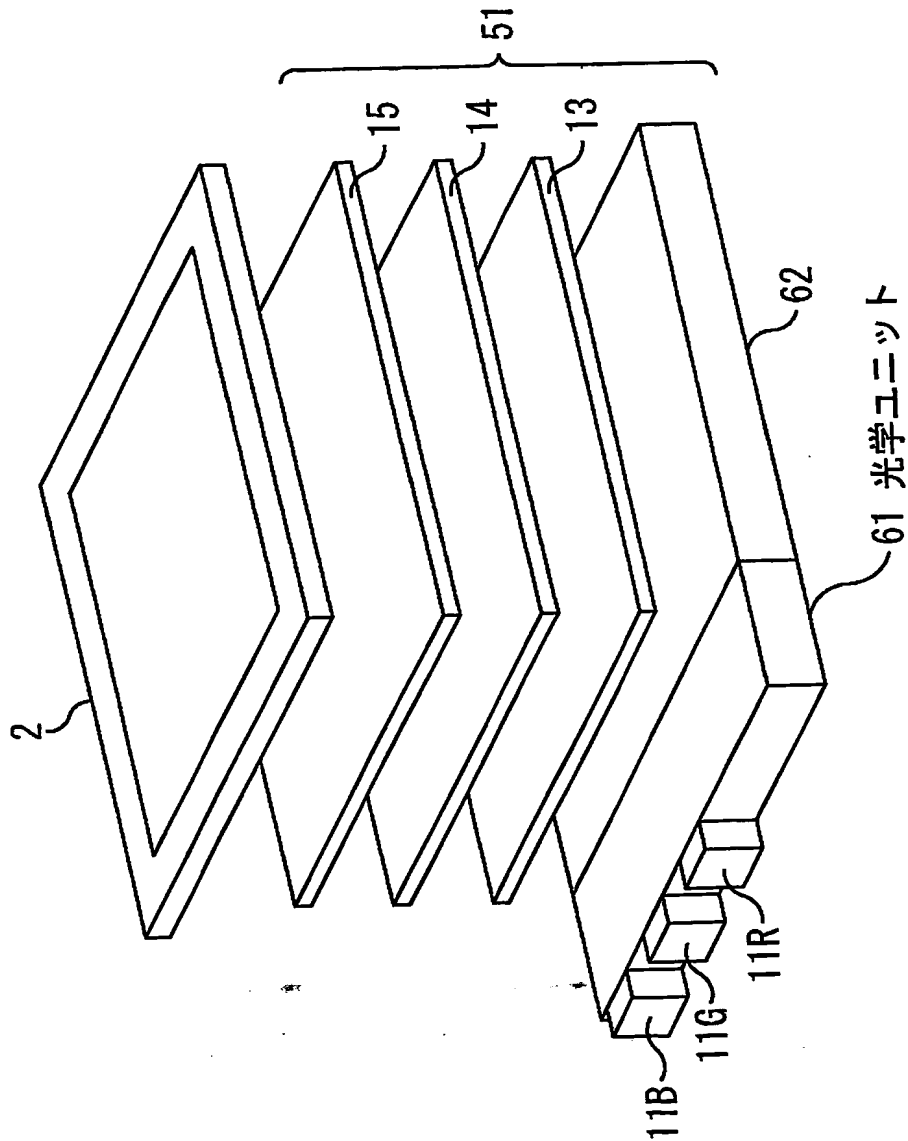
【図 2】

図2



【図 3】

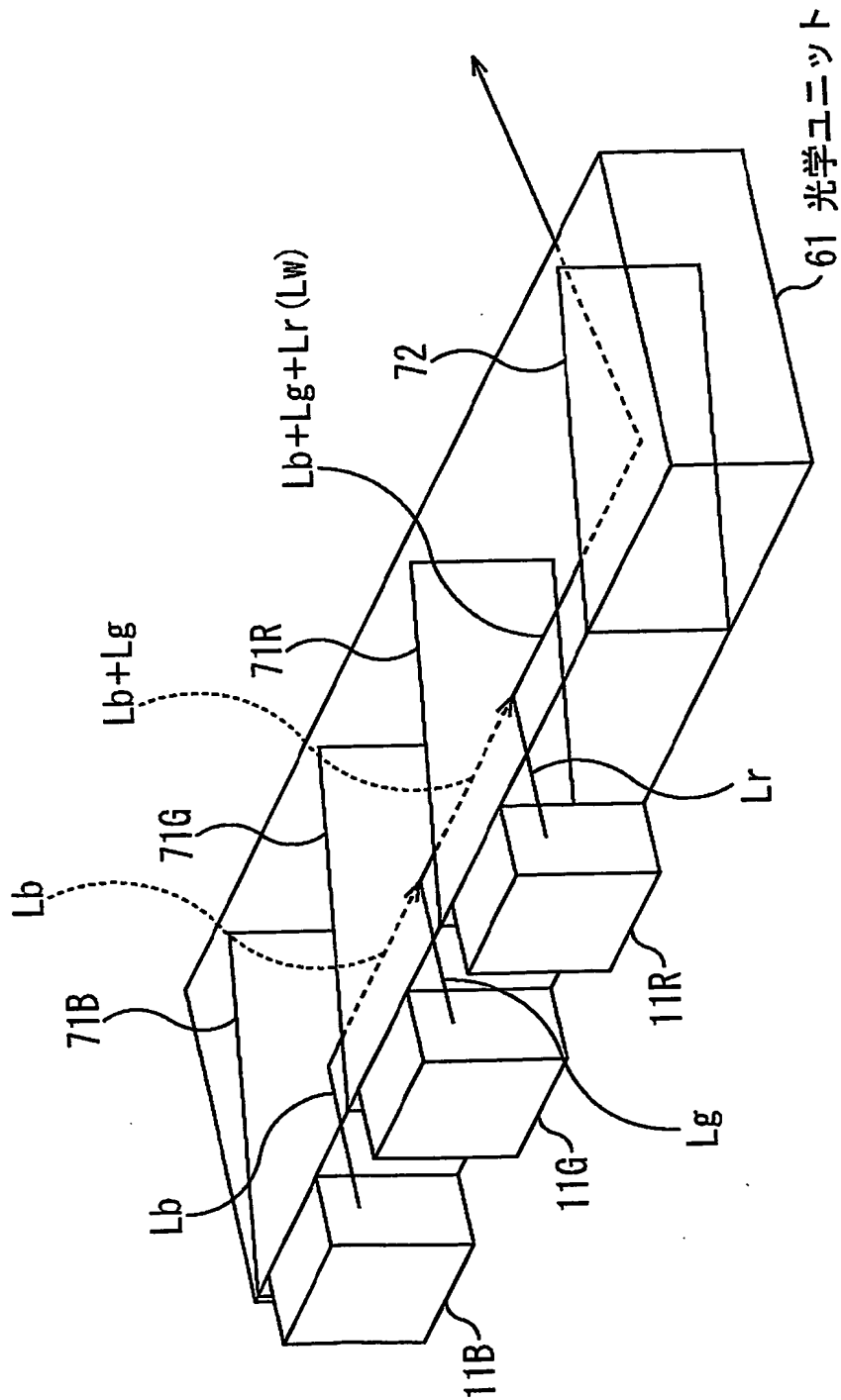
図3



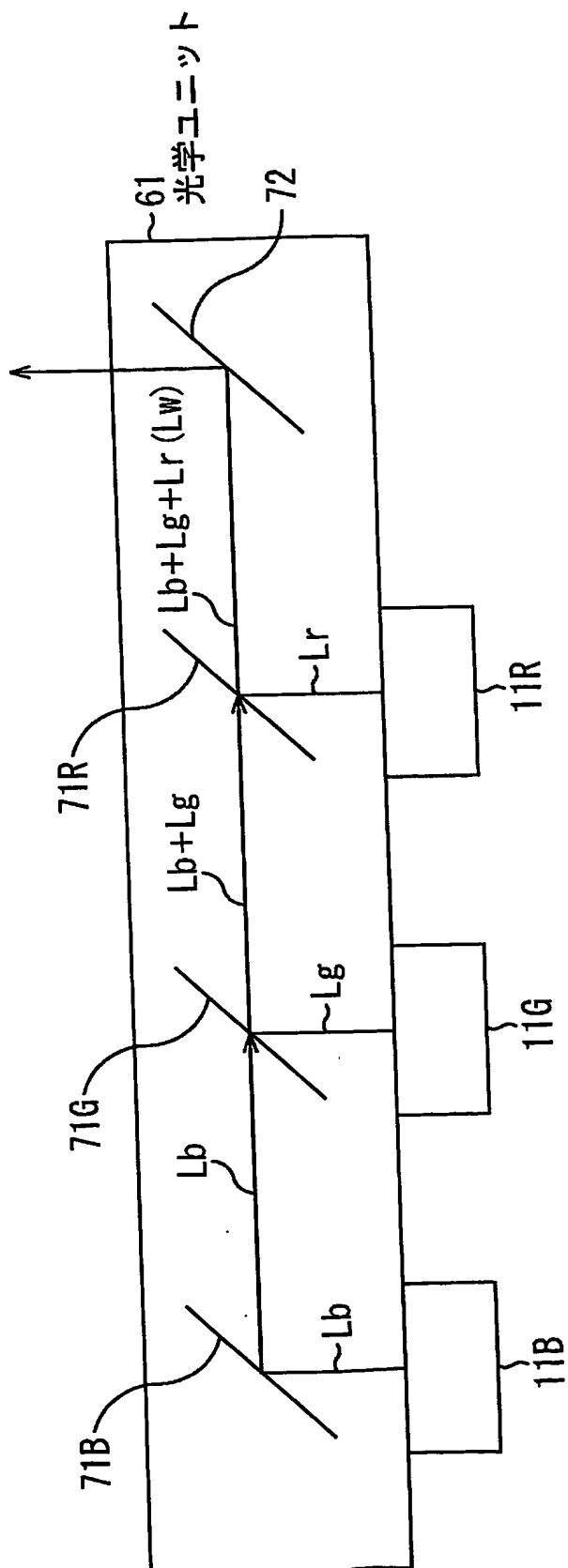


【図 4】

図4

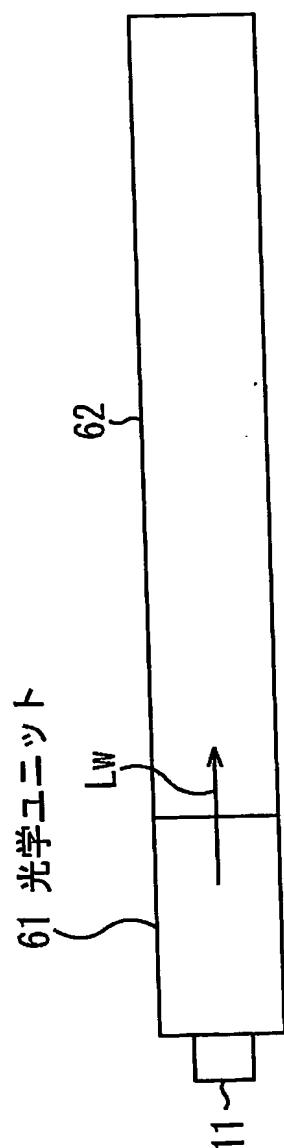


【图5】  
图5



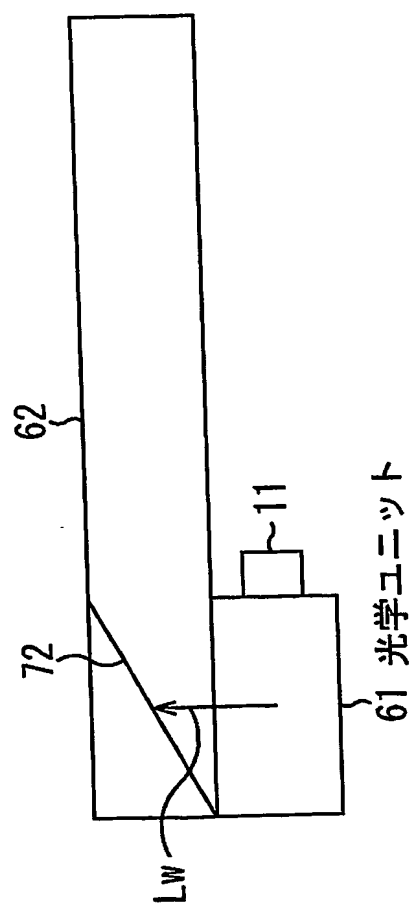
【図 6】

図6



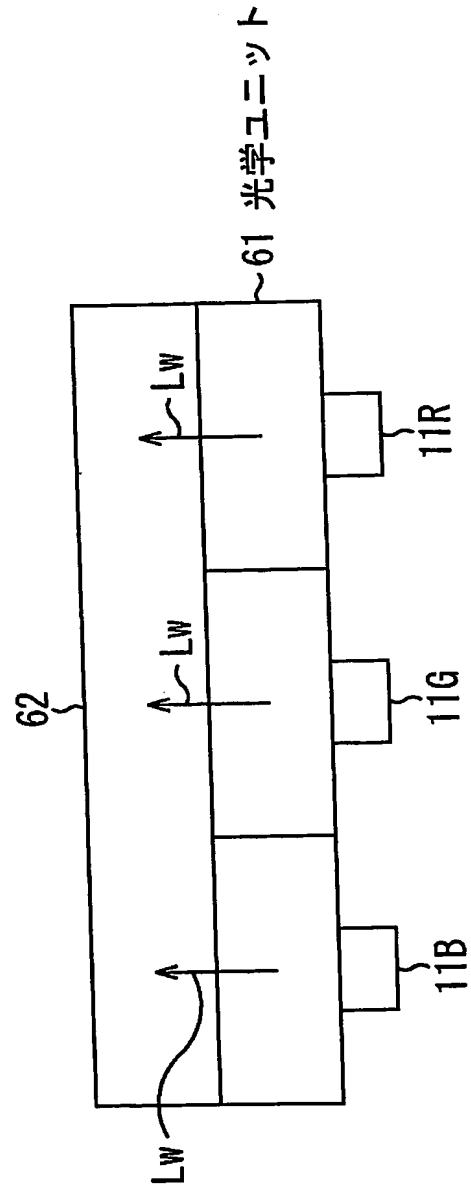
【図 7】

図 7



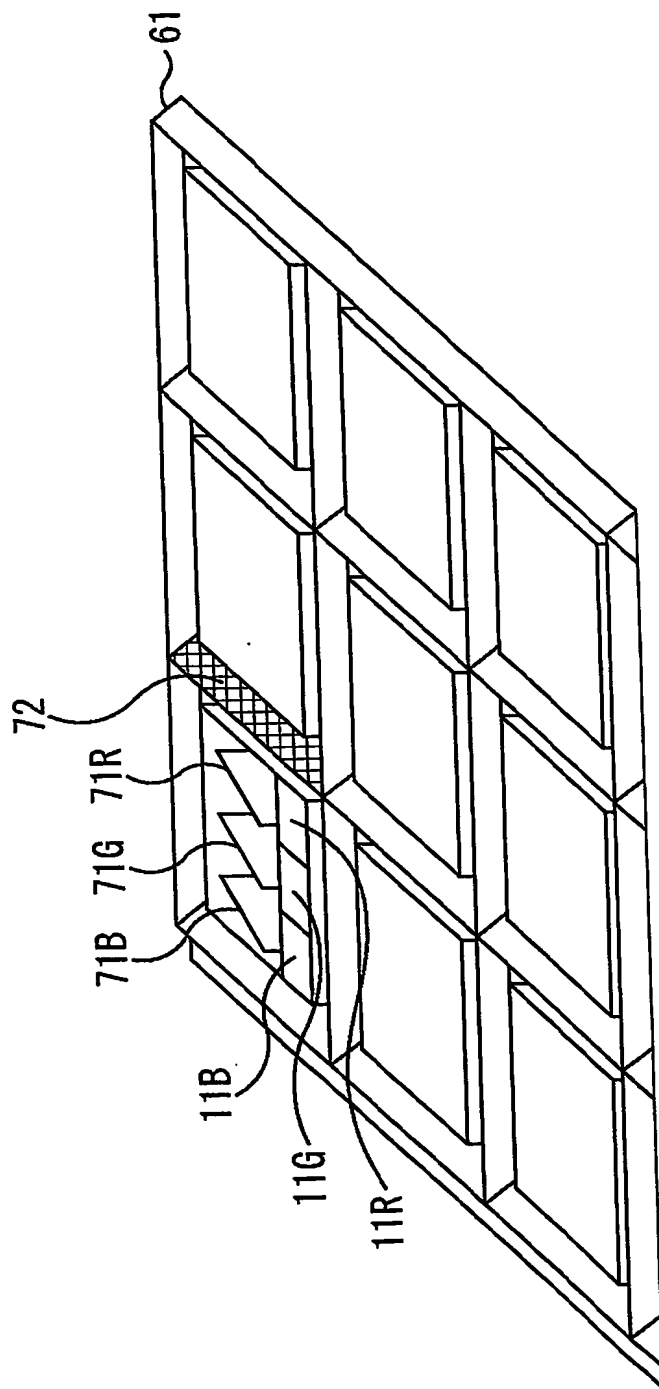
【図 8】

図 8



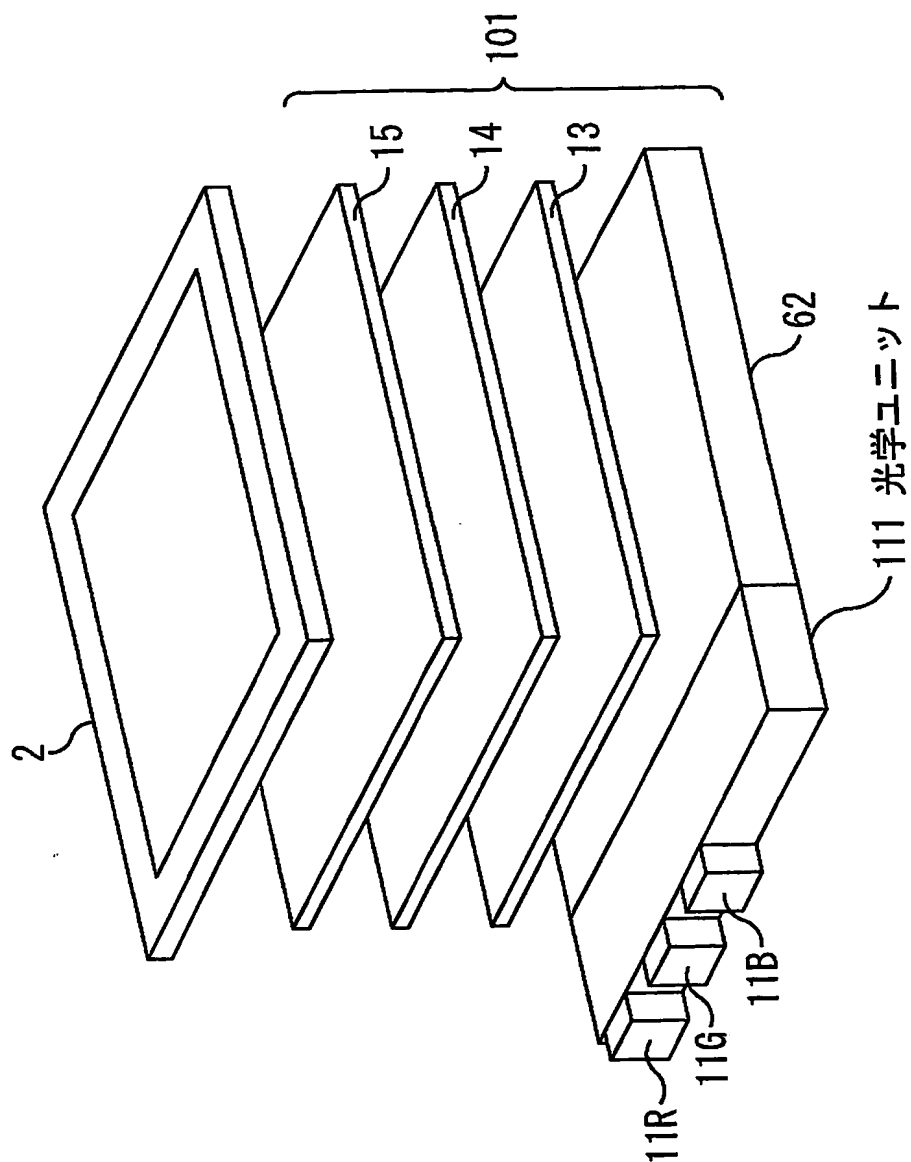
【図 9】

図9



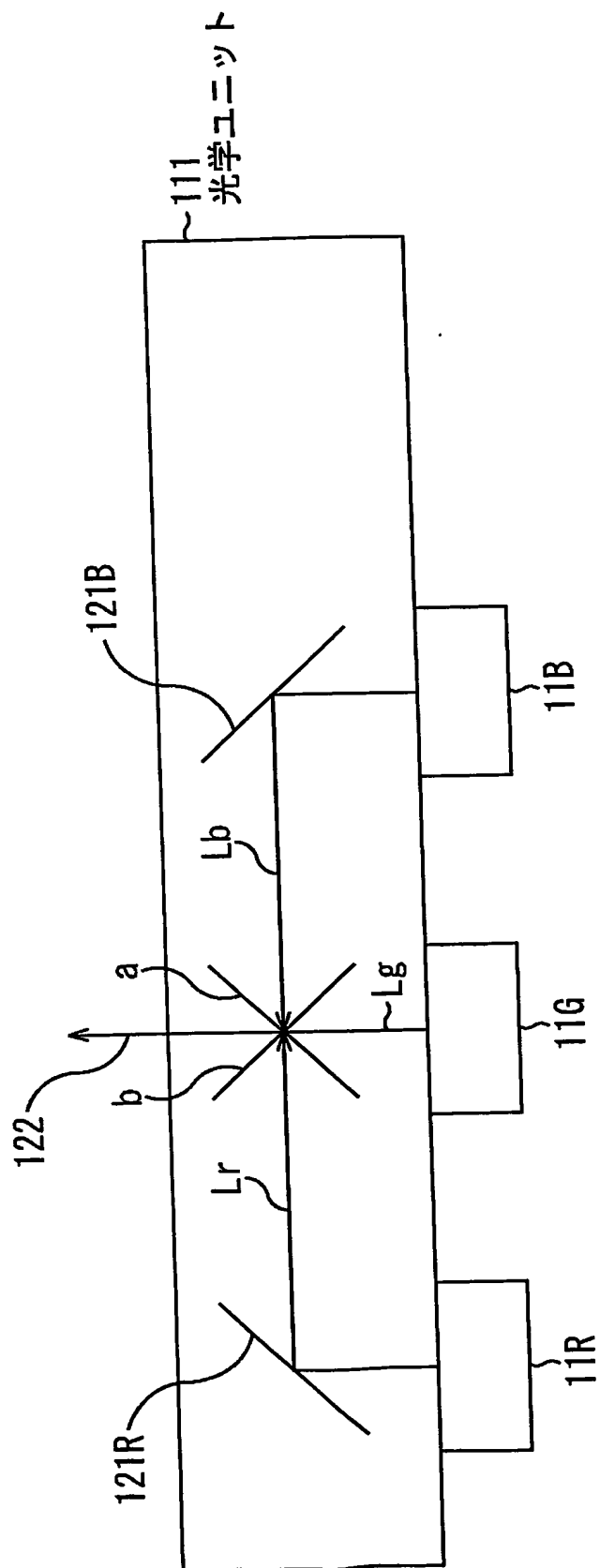
【図 10】

図10



【図 11】

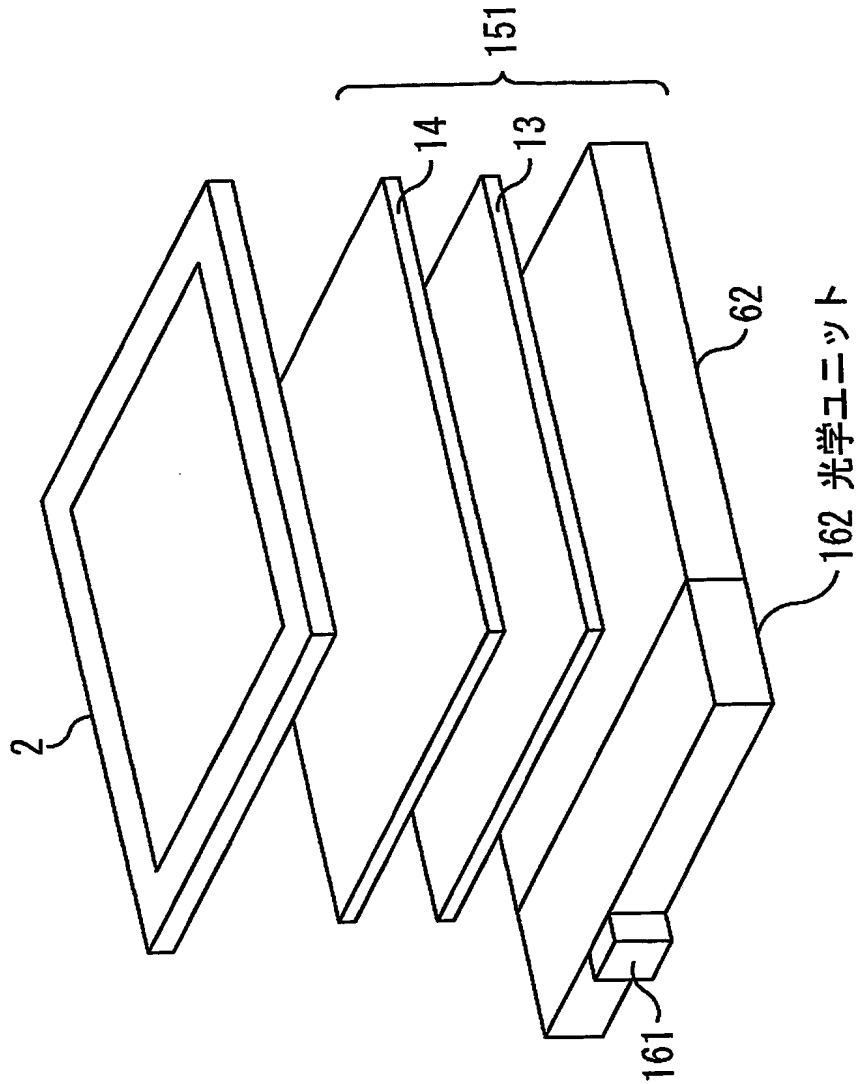
図 11





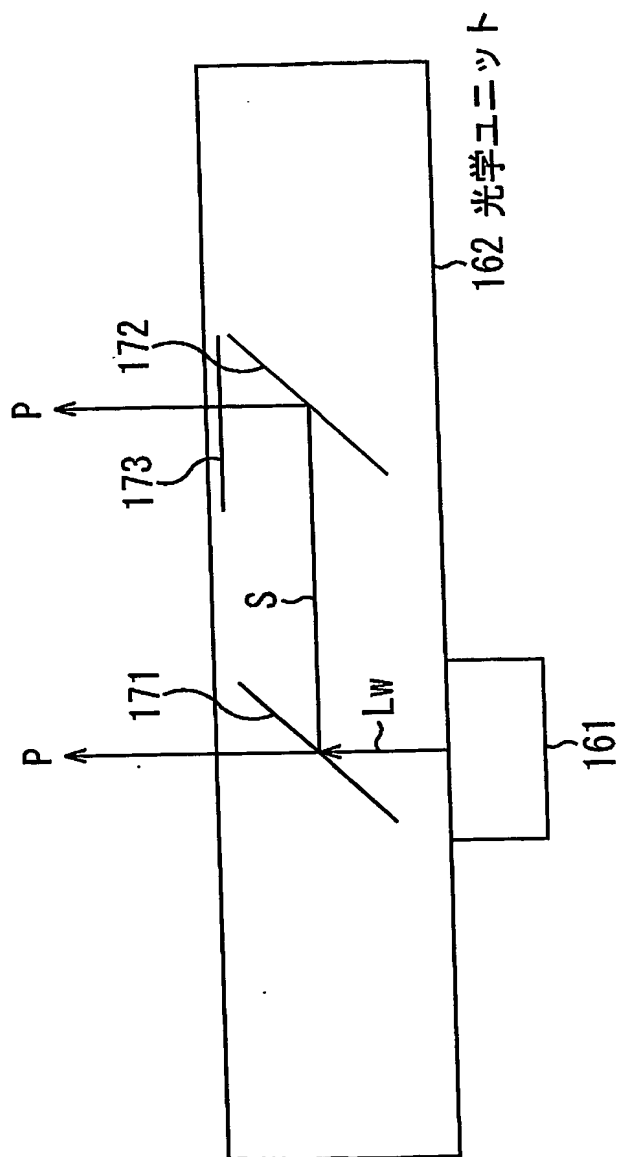
【図 12】

図12



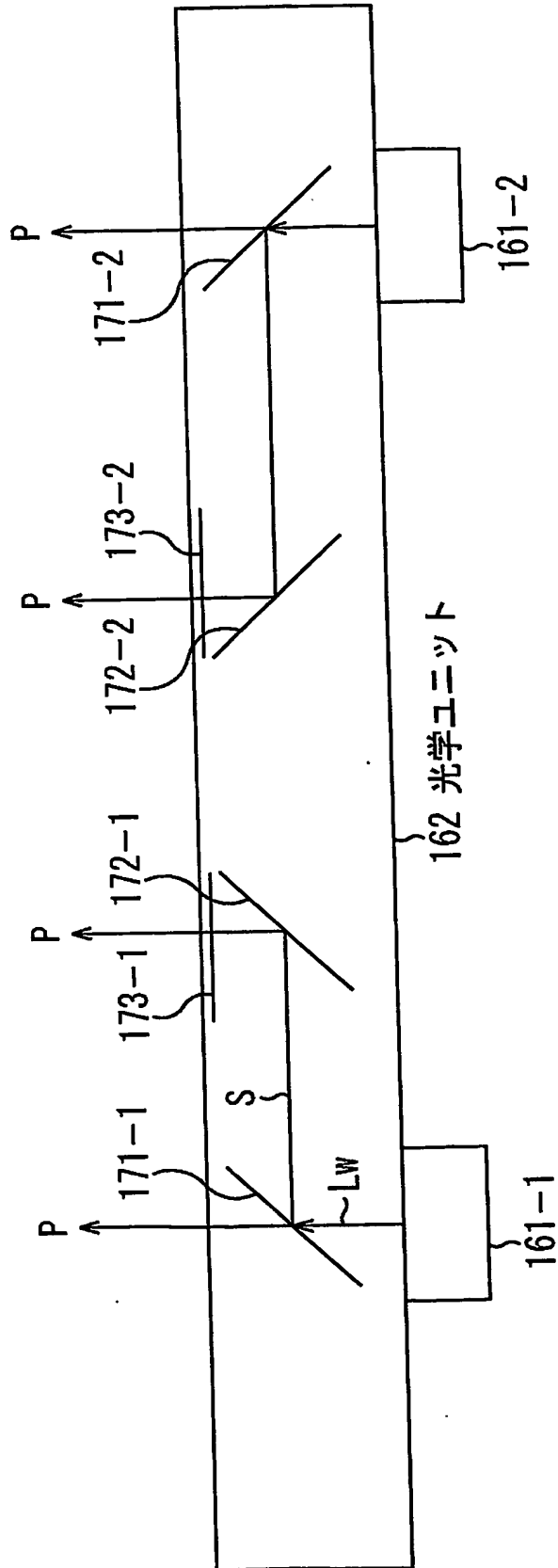
【図 13】

図13



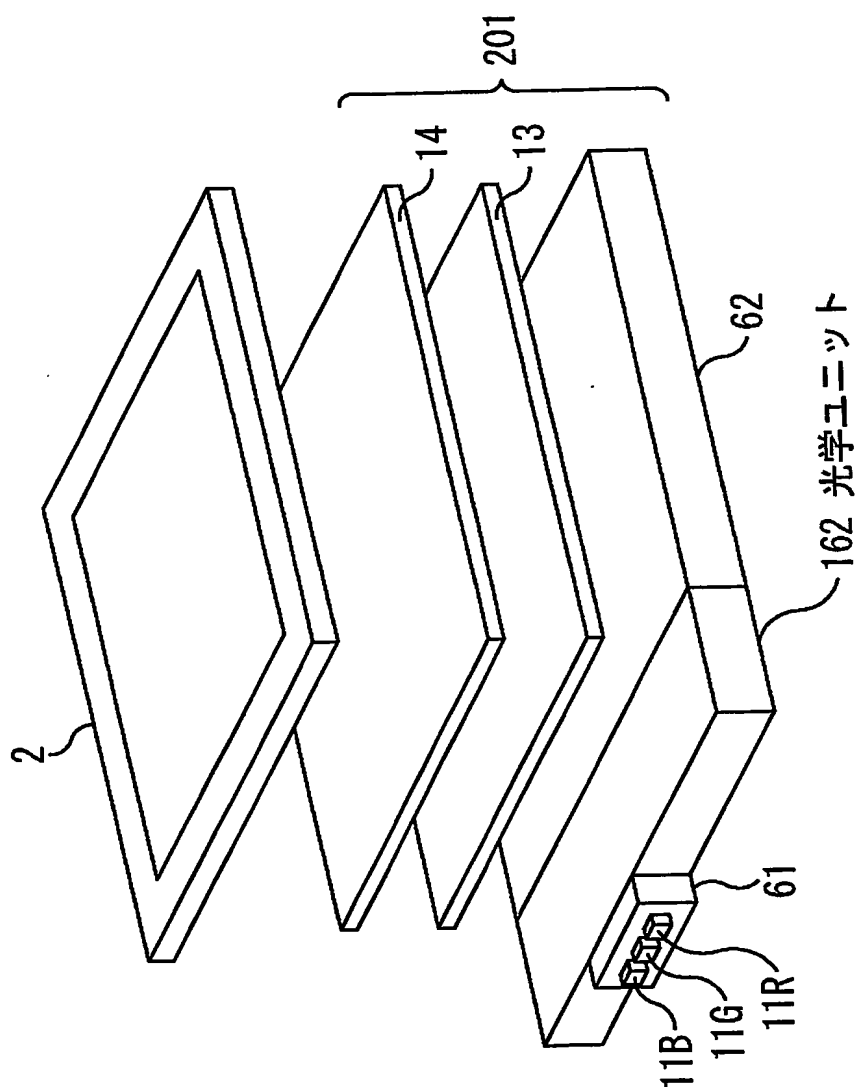
【図 14】

図14



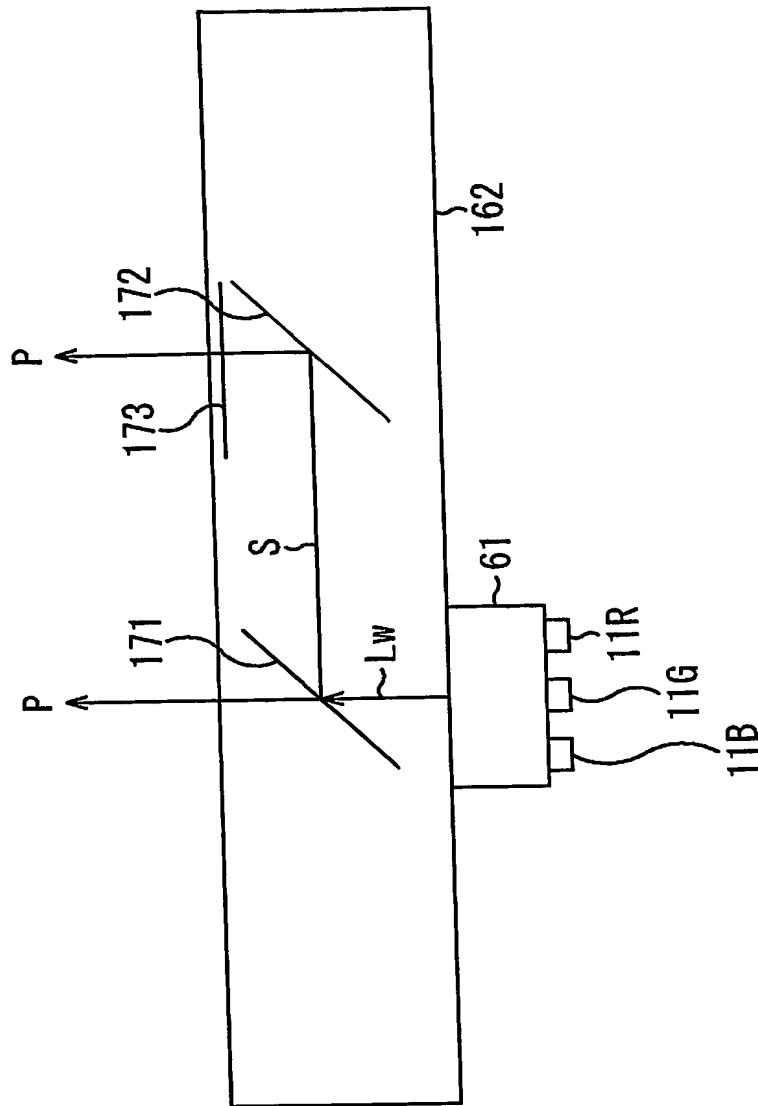
【図 15】

図15



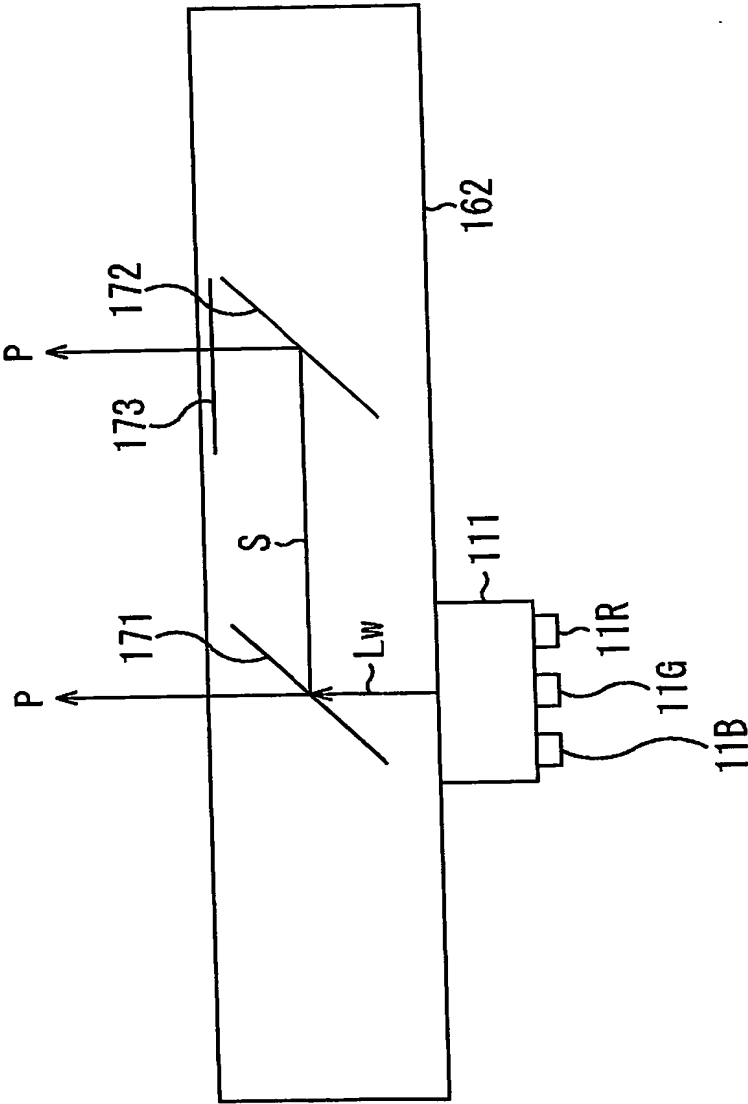
【図 16】

図16



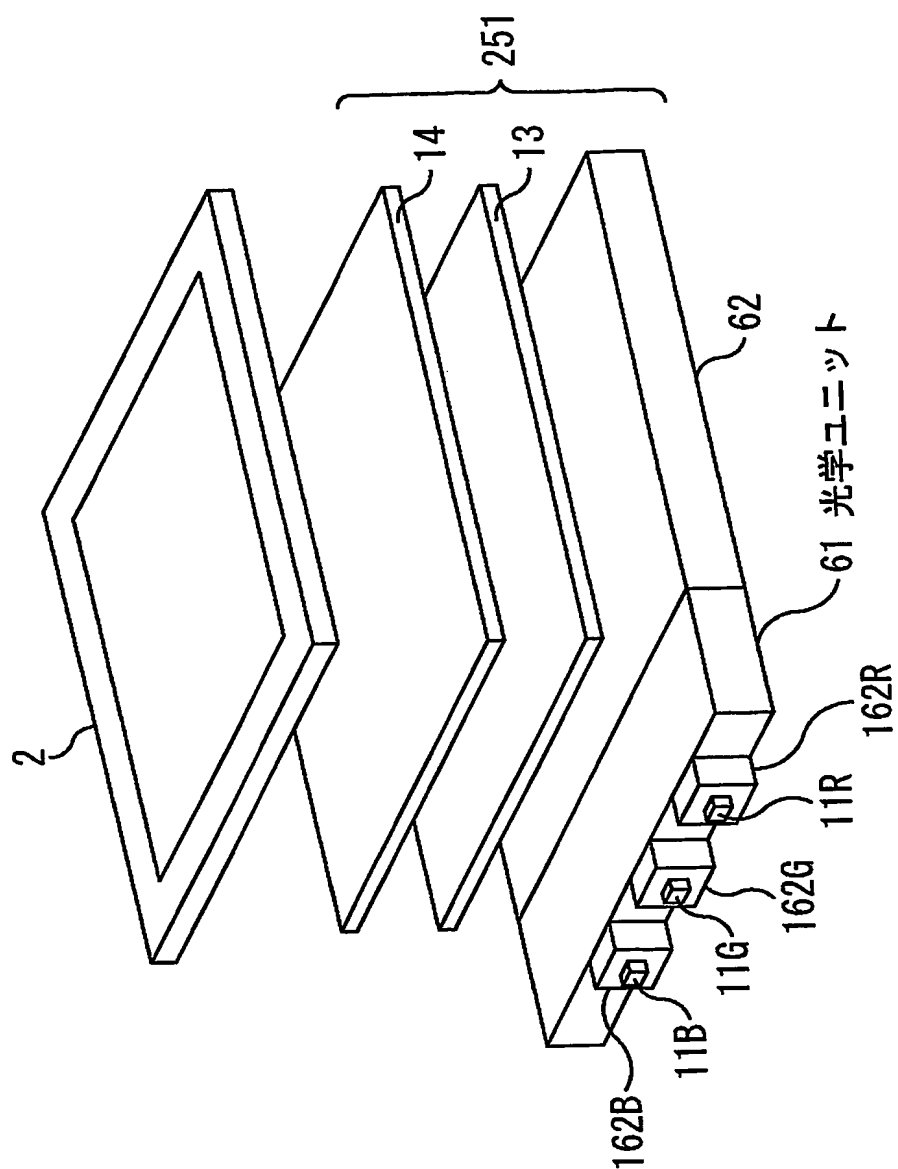
【図 17】

図17



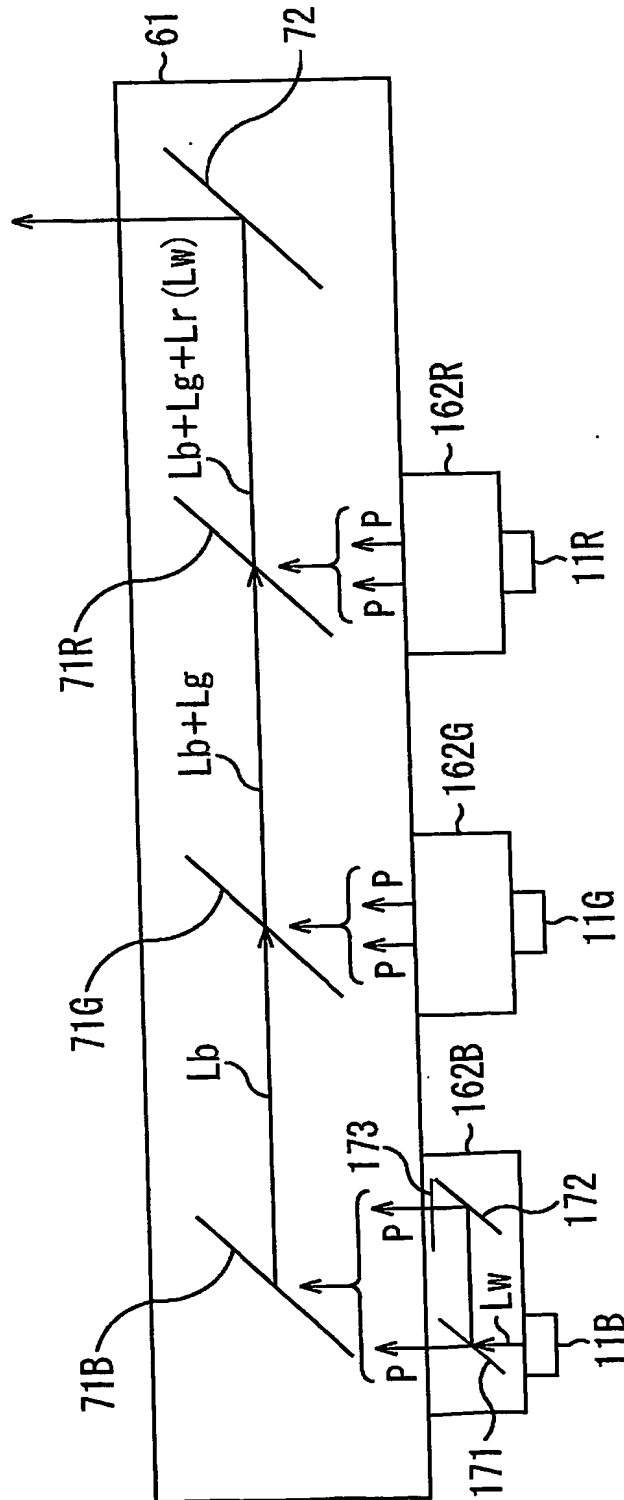
【図 18】

図18



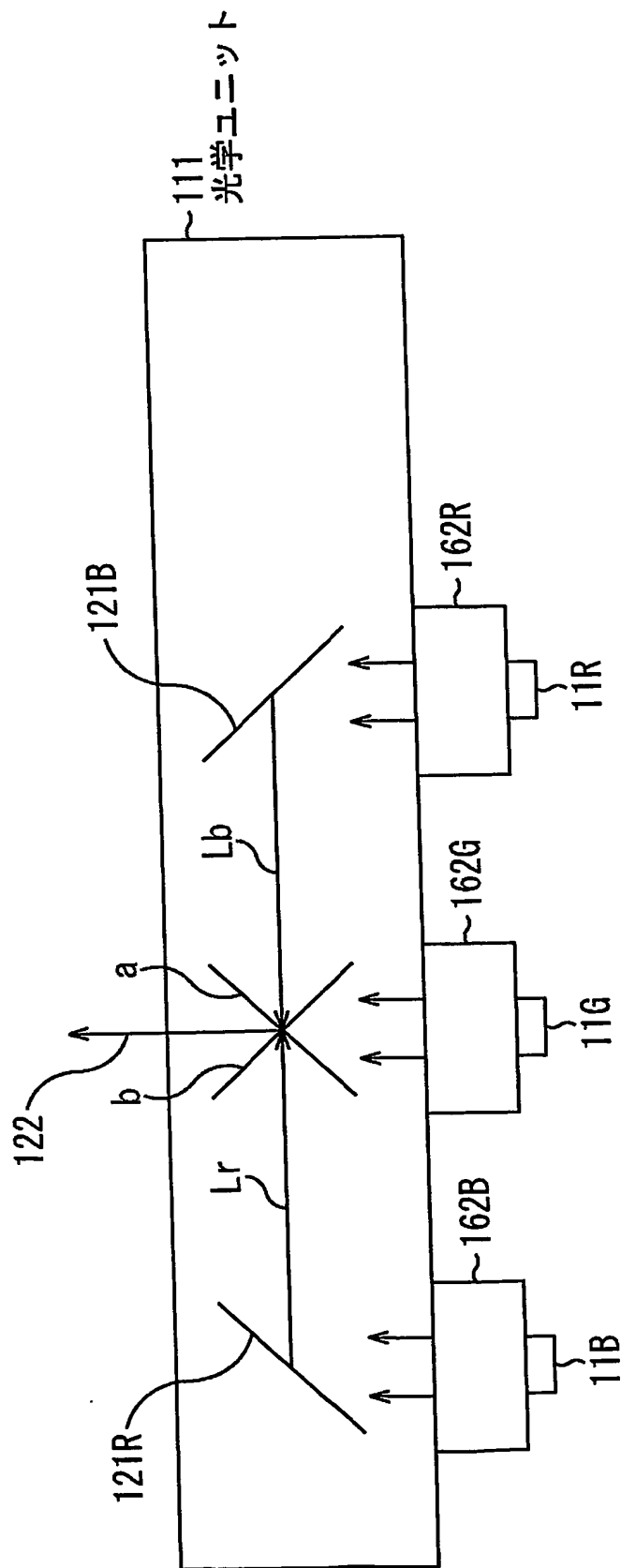
【図 19】

図19





【図 20】  
図 20



**【書類名】 要約書****【要約】**

**【課題】** LED素子を光源とするバックライト装置において、色ムラを無くして色再現性に優れたバックライト装置を実現できる。

**【解決手段】** 光学ユニット61には、緑色光L<sub>g</sub>と赤色光L<sub>r</sub>を透過し、青色光L<sub>b</sub>を反射するダイクロイックミラー(B)、青色光L<sub>b</sub>と赤色光L<sub>r</sub>を透過し、緑色光L<sub>g</sub>を反射するダイクロイックミラー(G)、および青色光L<sub>b</sub>と緑色光L<sub>g</sub>を透過し、赤色光L<sub>r</sub>を反射するダイクロイックミラー(R)が、LED素子11B、11G、11Rから出射された光を透過、または反射することによって色混合し、白色光L<sub>w</sub>が形成されるように配置されている。またダイクロイックミラー(B)、(G)、(R)によって形成された白色光L<sub>w</sub>は、全反射を行うミラーによって導光板62に入射されるようになされている。

**【選択図】** 図3

特願 2 0 0 3 - 3 4 0 8 1 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 2 1 8 5 ]

1. 変更年月日  
[変更理由]

住 所  
氏 名

1 9 9 0 年 8 月 3 0 日  
新規登録  
東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号  
ソニー株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**